

日本心臓血管放射線研究会学術研究助成
学会報告記

氏名 中原健裕

所属機関名(発表時) 群馬大学大学院医学部付属病院 循環器内科

発表学会名 Asian Society of Cardiovascular Imaging (ASCI-2012) (口演発表)

学会開催年月日 2012年 6月 9日～ 11日

演題名 “Replacement injection” methods may enable better visualization in the right heart.”

優秀論文賞受賞 無 有(Best young investigator award session finalist)

学会報告記(800字程度・写真1枚)

締切:2012年6月29日

◇本文

今回は日本心臓血管放射線研究会学術研究助成を頂きまして、誠にありがとうございました。今回、私が発表させていただいたのは Best Young Presenter Award Session というセッションでした。このセッションの Finalist 6名の中には、日本からは広島大学放射線科講師の立神先生と私が選ばれており、発表させて頂きました。発表後に ASCI の president でいらっしゃる慶応大学の栗林教授から finalist としての表彰状を頂きました。

学会全般としては、CT や MRI のみならず、SPECT/PET やエコーも含めた循環器画像全般に対する教育講演・特別講演が多数あり、其々の領域における最新トピックスを知ることができました。また、CT・MRI に関しては、CT 領域では SCCT (Society of Cardiovascular CT) とのジョイントセッションが、MRI 領域では SCMR (Society for Cardiovascular Magnetic Resonance) とのジョイントセッションがあり、Dr. Shapiro や Dr. Reiber を初め、海外の著名な先生方の御講演を拝聴することができました。

2 日目の夜は学会公式ディナーも用意され、タイの食事(と SINGHA BEER)を堪能できた上、教科書にでてくる有名な先生方と気軽に話す機会もありました。私は、QCA の産みの親である、Johan Reiber 先生(QCA: Quantitative Coronary Analysis。冠動脈造影における冠動脈狭窄率を定量的に計測する方法の生みの親)にご挨拶と握手させて頂くことができました。また、タイ料理を満喫した後は、タイの伝統人形劇「フン・ラコーン・レック」のショーを見ることができ、充実した 3 日間の日程でした。

休憩時間の軽食が、ランブータンやドラゴンフルーツなど日本ではあまり目にしないフルーツ・御菓子である等、学会場の随所にタイ独特の文化が見られ、現地の雰囲気学会場の中でも楽しめました。比較的近く、時差も少ないアジアで週末にかけて行われるため、早朝に帰国する飛行便を利用すれば、その国の文化を堪能しながらも、臨床業務にも左程影響なく、比較的参加しやすい学会だと思います。またタイまでの航空券は、本助成金を用いてほぼ購入することができました。次回は、中国の北京で 2013 年 8 月 17～18 日開催ですので、参加(及び本助成金への応募)をご検討なさるのは如何でしょうか。

写真

左上: オープニングセッションの様子。

左下: フン・ラコーン・レックのショー。慶応大学の陣崎雅弘先生(Cardiac CT について基礎から教えて頂きました。今回の発表の共著者でもあります。)の御蔭で良い席で鑑賞することができました。

右: ASCI president でいらっしゃる慶応大学の栗林幸夫先生より Best young investigator award の finalist として表彰状を頂きました。

